

きんもくせい

平成28年 学校教育だより

December **12** 第331号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線623)
FAX・049-255-9635

編集目標 人間尊重の教育を求めて



赤とんぼ発表会 ～キラリ☆ふじみにて～

写真提供/南畑小学校

「もしもの命」

ふじみ野小学校四年

林 幸大

もしも
お母さんが
うんでくれなかったら
もしも
お兄ちゃんがいなかったら
もしも
友達がいなかったら
もしも
スポーツを
していなかったら
もしも
この世界がなかったら
ぼくはいつたい
どうしていたんだろう
ああぼくって幸せだな

進んで運動に取り組み、体力を高め合う

体育の授業が終わり、友達と楽しそうに教室へと戻っていく子どもたち。その背中にはびっしょりの汗。私は、この光景にこそ「体育」の原点があるように感じます。体育の授業で、何を感じさせ、身に付けていくのか、単元の目標を見通した、一時間、一時間の授業が勝負であると考えます。現在、日常的な身体的活動の減少や、運動をする子としない子の二極化は依然として課題となっています。学校体育においては、すべての児童生徒に対して、運動への関心を高め、自ら運動する意欲、運動の技能、知識など、生涯に渡って運動に親しむ資質や能力を身に付けさせることが大切です。さらに、体育の授業において、ただ「できた」にとどまらず、「なぜできたのか」「どこがよかったのか」など、頭で「わかる」ことも必要です。授業の中で思考する場面を取り入れ、「わかる」「できる」を一体化する体育授業を展開していくことが、学校体育で抱える課題を解決できると考えています。

児童のめあての明確化

学習のめあては、体育の目的・内容や教材と一致したものでなくてはなりません。学習のめあてが、その運動の特性(教えるべき内容)と異なった形で設定されると、その運動の本質や意味と違った学習になってしまいます。例えば、跳び箱運動でいえば、四年生の台上前転から五年生の大きな台上前転につなげるために、「腰を高くあげて手を着く」から「膝を伸ばした状態で手を着く」というように四年生で意識したことよりも発展させためあての持たせ方が必要となってきます。それ

水谷小学校 教諭 齊藤 勇海

思考を「わかる」へ

「できる」から伴った

わかる授業 = 小学校 体育 =

教員の工夫

「わかる」授業を展開するためには、場に合った教具の工夫も必要であると考えます。①技のポイントが確認できる掲示物(取り組む技の挿絵にポイントが明記されたボード・写真②)



(写真②)

②自分の動きを見返せるカメラ(動画撮影により、ポイントと照らし合わせ正しい動きに近づける)なども有効な手立てであると考えています。このような場に合った教具によって、動きのポイントがわかったり、自分の動きを確認することができ、より理解が深まり、「できる」から思考を伴った「わかる」レベルへと高まっていきました。

理解を深める学びあい

一人ひとりの理解を深め、「わかる授業」を実現していくためにも、子どもたちの関

特別支援教育

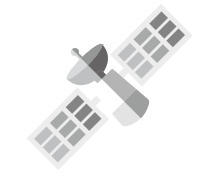
様々な活動を通して はやぶさ学級

勝瀬中学校 徳永 由美子

本校のはやぶさ学級(三年生男子四名・女子二名、一年生男子一名・女子二名の合計九名が在籍)は、元気で仲の良い学級です。「はやぶさ」の名前は小惑星探査機「はやぶさ」を由来としています。四月には、一年生の母校である鶴瀬小学校とふじみ野小学校に、全員で小学校訪問へ行きました。中学生らしくな

き、自然豊かな場所で登山や野外炊事等の貴重な体験活動を行いました。十一月には、教室を作業所に見立てた校内実習、三年生による産業界等における実習を行いました。仕事だという意識をもった生徒たちの真剣に打ち込む姿が見られました。

これからも、はやぶさ学級らしい様々な学習や活動を通して、更に成長してほしいと願っています。



みずほ台小学校 6年 澤村 舞音



みずほ台小学校では、10月に音楽会がありました。私は実行委員で司会を担当し、修学旅行もあって忙しい中、約1か月の練習をしました。赤いベレー帽をかぶった司会者が曲と曲の間をつなぐのが、音楽会の定番です。約3分の時間を自分達で

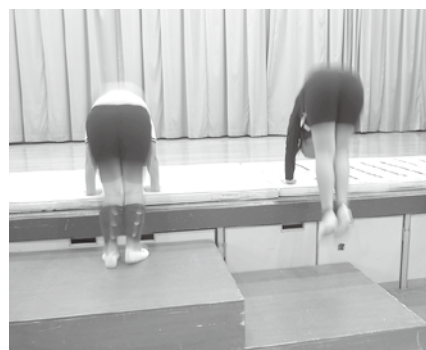
小学校生活最後の音楽会

作った台本で勝負します。曲の準備がいつ終わるのか、長引くのか分からないので、始まるまではすごく不安でした。本番も、ずっと緊張していましたが、前に立つとリラックスして話すことができました。『練習はうそをつかない』の通り、実行委員の責任を果たし、音楽会を成功させることができました。とても良い経験になりました!



段階的な指導

実感を伴った理解のために、運動の特性を念頭に、身に付けさせたい技能・動きを細かく分け、ステップアップしながら取り組むことのできる段階的な学習が大切であると考えます。第六学年における「跳び箱運動」の慣れの運動では、ステージとひな壇を使用し、腰上げ練習を(写真①)



(写真①)

主運動では、一人ひとりの

実態に応じ、「マットで前転を行う場」「低い段数で台上前転を行う場」「六段から台上前転を行う場」「ひな壇からエバームットに向けスプリング系の技を行う場」「六段からエバームットに向けスプリング系の技を行う場」「六段からマットに向けスプリング系の技を行う場」というように、いくつもの練習場所を用意し、自分の課題に応じた場を選択させました。どうしたら次のステップに進めるのかを学習カードをもとに考え、取り組むこと、実感を伴った理解につなげることができました。

終わりに

「わかる授業」とは、個に応じためあてを持たせ、身に付けさせたい動きや技能を明確にし、ポイントをおさえた学び合いの中で思考し深まっていける授業だと考えます。本校の学校研究においても、これまで述べた点を意識し、日々授業を実践しています。今後も研究を重ね、学校体育の向上に努めていきます。

「運動好き」な子の育成の鍵は、体育の授業の充実です。本校は、この二年間、学校課題研究として体育を取り上げ、体育の授業の改善を図ってきました。齊藤教諭の「跳び箱運動」の授業でも、めあての持たせ方、個に応じた段階的指導、教具の工夫、学び合いなど、研究の一端が具体的に実践に結び付いています。児童が思い切り体を動かし、汗を流し、「できた!」「わかった!」と笑顔が輝く体育授業の積み重ねが大切です。

指導・講評 水谷小学校校長 福満浩一

歩み続けて

水谷中学校 保護者 關野 常和

私には三人の娘と一人の息子がいます。子育てを振り返ってみると、ほとんど妻に任せきりで、取り戻すことの出来ない貴重な時間を無駄に過ごしてしまつたことを後悔しています。

息子は、末っ子の長男のせいですが、家では元気いっぱいなのですが、外へ出たり、新しい環境では、慣れるまで時間がかかる子でした。しかし、小学校、中学校と歳を重ねるごとに、先生方や友達に背中を押してもらいながら徐々に積極的になっていき、色々な経験をさせていただけようになりました。



特に中学生になると部活や生徒会、英語の弁論大会と貴重な経験を積むことができたようです。私は英語が苦手な、まさか自分の子が「英語？」という思いもありましたが、子どもが興味や目標を持った事への吸収力、成長力には、親の方が驚かされました。そして、自分の得意不得意という物差しで子どもを見てはいけないのだと痛感した次第です。

死ぬまでにいかに有効に充実した時間を過ごすのか。それは各々の生きる力に左右されるのではないのでしょうか。生きる力は決して自分一人でははぐくむことはできません。子どもたちの成長過程において関わる全ての人、環境、社会によつてはぐくまれていきます。



くと思ひ、現在五才の三女が卒園する際にも同じ言葉を贈りたいと思っています。そしていつの日か、三人の娘たちが三番目に大切なものを見つけたという報告を受けるのを楽しみにしています。



心を育てる一ヶ月

諏訪小学校

本校では、児童の自他の命を尊重する心、他人を思いやる心など豊かな心を育てるため、全教育活動を通して道徳教育の充実を努めています。今年度から十月三日～十一月五日を「心の教育月間」とし、特に毎年十月十九日を諏訪小学校「徳の日」としました。この期間は特に学校・家庭・地域と連携して道徳教育の充実を図っていきます。

具体的な取組として、みんなの心が温かくなるような思いやりの標語やスマイル標語を考えました。また、心の教育月間と並行して「秋のあいさつ運動」を全校で行っており、各学年の児童が登校時間に合わせて校門に立ち、登校してくる児童にあいさつをしています。特に元気にあいさつしている児童には「あいさつリーダー認定カード」を渡



「課題BOXの有効活用」

富士見特別支援学校

本校の小学部には、一人ひとりの児童に対して「課題BOX」を用意しています。主に国語・算数・自立活動等の学習に使用しています。BOX内には、児童の実態に合わせた教材・教具を用意し、教員と共に学習したり、自立課題として一人で学習に取り組みたりしています。

課題BOXを使用する利点として二点挙げられます。一点目は、BOXを児童が

自ら机横に「準備」をすることで、学習への切り替えが行いやすいところです。また、学習後はBOXを元の場所に「片付け」することで、終わつた達成感を味わうことができるところです。

二点目は、BOXの一段ずつに、学習内容を端的に示すことで何をやるのかわかりやすくし、上から一段ずつ課題をクリアして次の段に進みます。このような流れをパター



ン化することで見通しを持ち、児童が一人でも意欲的に取り組みやすいところです。このように、課題BOXはとても有効な学習ツールなのです。

生きる力をはぐくむ

ふじみ野小学校 保護者 上野 直美

「生きていくのに一番大切なものは命。二番目は時間。三番目からは自分で見つけなさい。」

これは小四の長女、小二の次女が保育園を卒園する際に私が彼女たちに贈った言葉です。

命も時間も生きていく者に平等に与えられており、そして一度失えばどちらも二度と手に入らない、取り戻すことのできない貴重な存在である

と私は考えています。

当然ながら子どもたちにとって直接目で見ることでもできず、手に触れることもできない「命や時間」という概念が理解できているとは思いません。それぞれどこか、生きていくのが当たり前だと思っているのかもしれない。けれど私はあえて口うるさく「一に命、二に時間」と口癖の様に伝えていきます。なぜなら、死も平等に与えられており、そこか

教育課題特集 はぐくむ ~学校・家庭・地域から~

子ども司書 大活躍

富士見市立中央図書館 神山 友香

中央図書館では、毎年夏休みに三日間の「子ども司書講座」を開講しています。今年度は、諏訪小学校から四名、針ヶ谷小学校から三名、水谷小学校から二名、合計九名の子どもたちが参加してくれました。

今年度は「おはなし会をしよう」をテーマに、子ども司書によるおはなし会を行いました。

おはなし会の練習では、大型絵本のページをタイピングよくめくったり、本の持ち方を工夫したり、紙芝居の登場人物ごとに読み手をかえたりと、熱心に取り組んでいました。

おはなし会の時間が近づくと、「緊張する」と口々に話していた子どもたちですが、いざ本番となると「……、とても元気な「はじまるよ」の遊び歌でおはなし会がスタート。大型絵本の「くじらだ！」「へんしんトンネル」紙芝居の「ばけこちゃんとうみ」「なはなしを読んでもくれました。



最後には、手作りのしおりをプレゼントしました。読み手の子どもたちも、聞き手の子どもたちも、大満足、大成功のおはなし会となりました。この子ども司書講座では、学校や家庭、地域の中で、本の魅力を伝えるリーダーを育てることを目的の一つとしています。子ども司書たちが、これからも積極的に活動していきけるよう見守っていただき、子どもたちに負けないように先生方、保護者の皆様も、本に触れる機会を増やしていただければと思います。

人間尊重・私の主張

人権問題について

誰もが幸せになれるように



南畑小学校 五年 中 遥翔

ぼくは、障がいがある人とふれあったことがあります。四年生の時に、となりの特別支援学校との交流会がありました。その前までは、他の人とはちがうと差別をしていた自分がいきました。でも、この交流会を通して障がいなんて関係ないと思いました。障がいがあっても支えてくれる人がいます。その人達を見て、障がいがある人が望んでいるのは、同じ人間として扱ってもらえることのように感じました。遊ぶ時間もあつたのですが、やはりハングレはありました。でも、ぼくはもんくを言いませんでした。障がいがあると知っているからこそ、言いたくありませんでした。

でも、よく考えると、同じ人として扱ってもらえることが本当に障がいがある人の幸せかは分かりません。例えば、ぼくが足が不自由だとしてみんなでおにごっこをします。もちろん、足が不自由であれば、みんなのように速くは走ることができません。すると他の子は、「この子は障がいがあるからハンデをあげよう」とハンデをあげます。他の子はや

さしい気持ちでハンデをあげたつもりでも、それがいやな子もいます。「障がいがあるから」「他の子とちがうから」という見方は、障がいがある人はいやかもしれません。

では、障がいがある人の幸せは何か考える一つ考えついた答えがあります。それは、だれとでも支え合って生きていくということです。自分だけ特別あつかいされて、自分だけ他の人を支えないのであれば、ただの差別です。障がいがあつても支えられること、自分ができることをさがし、みんなで生きていくことが障がいがある人の幸せでもあると思います。

ぼくは今までの学習で、いろいろな障がいのことを学びました。目が不自由な人、耳が聞こえない人などさまざまな障がいがあります。でもぼくは、そういう人達とふつうの人達のどこがちがうのか分かりません。たしかに人とちがつても、人は人で人間です。ぼくはそういう人達を支えていきたいです。

ぼくは、いろいろなことを学習しました。いろいろな障がいがあることや障がいがある人の気持ちなどを学びました。知っているからこそ、こまつた人や障がいがある人を支えていかなくはないかと思えます。今まで勉強したこと、特別支援学校でのけいけんなどを生かして、今後は、だれもが幸せになれるようにこまつている人を積極的に支えていきたいと思えます。

《小学校宣言》

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動を心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。

一私たちは、いじめをしている人に「遊び半分で相手を傷つけるようなことはしてはいけない」と注意します。

一私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。

一私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。

一私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」とお願いします。

一私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、いじめはだめだと訴え続けます。

《中学校宣言》

私たちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために以下のことを宣言します。

一私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。

一私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。

一私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなで助け合おうよ。」と声をかけていきます。

一私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりをちゃんと理解して、良くなかったら注意をしてください。」とお願いします。

一私たちは、仲間を大切にして、いじめを撲滅する努力をします。

富士見市
つくるなご学校へんごせ宣言

人間尊重教育推進

わたしたちのまちに育てよう人間尊重の心

一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだと心の健康を高めよう」

「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」

「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」

と呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのです。

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人ひとりの子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人ひとりの子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されておりますのでご活用ください。

家庭、学校・行政が力を合わせ、一体となつて子どもたちの健全な育成に努力していきましょう。

家庭における人間尊重教育十か条

- 一人のいのちを大切にし
いのちある動物、植物をいたわりましょう
- 健康を大切にし 正しい食事と適度な運動でからだづくりにつとめましょう
- おはよう、おやすみ、ただいま、おかえりのことばが聞こえる温かい家庭をつくりましょう
- ありがとう、ごくろうさまの素直なことばで感謝の心を育てましょう
- 家族の仕事を分担し
家族の一員としての役割をはたしましょう
- 人の喜びを喜びとし 人の心の痛みを分かちあい助けあつていきましょう
- やさしさ いたわりの心を大切にし
おとしよりの方々に学びましょう
- どんな物も人の汗と力でできることを知り物を大切にすることを育てましょう
- 正しくやさしいことばでつつまれた
明るい家庭をつくりましょう
- 正しいことをつらぬく強い心で
勇気ある行動をとりましょう

人間尊重 わたしたちの合言葉

- ふやさうよ やさしい心 笑顔の輪
(水谷東小学校 五年 秋田 愛実)
- あいさつは とじた心を ひらくかぎ
(南畑小学校 五年 谷沢 侑来)
- 良い所 見つけて広がる クラスの輪
(富士見台中学校 一年 松本 七実)
- 助けよう その行動が 笑顔よぶ
(水谷東小学校 五年 宮崎 友愛)
- 困ったら 勇気をだして 相談を
(諏訪小学校 五年 川口 美季)
- 割れたまま 心の鏡は もどらない
(勝瀬中学校 一年 永田 瑠夏)
- 「大丈夫？」 その一言で 変わるから
(水谷中学校 一年 鶴留 京子)
- 入間郡市同和对策協議会
入間地区人権教育推進協議会 応募作品より
富士見市人権教育推進協議会

教育委員会だより

◆ 富士見市高等学校等入学準備金 利子補給のご案内

この制度は、高校、専修学校、専門学校、短期大学及び大学へ入学する者の保護者で、日本政策金融公庫の教育一般貸付(入学資金)を受けた方に対し、市がその返済利子の一部又は全部を助成し、経済的負担の軽減を図るものです。

◇ 利子補給対象者

- (1) 市内在住の方
- (2) 市税(市県民税、固定資産税、軽自動車税)を滞納していない方
- (3) 日本政策金融公庫の教育一般貸付(入学資金)を受けている方

◇ 利子補給額

対象額は、融資額の内70万円以内の額を限度とします。利子補給額は、融資を受けた利率で、元利均等月賦償還、据置期間なしとして計算します。

◇ 利子補給期間

教育一般貸付の融資を受けた日の属する月の翌月から5年を限度とします。

◇ 問合せ

教育委員会教育政策課まで(富士見市立中央図書館2階)
電話 049-251-2711(内線612)
FAX 049-255-9635

※教育一般貸付の融資に関する問合せは、日本政策金融公庫へ

- ・ 日本政策金融公庫 川越支店
〒350-1123
川越市脇田本町14番1 日本生命ビル5階
電話 049-246-4171(申込み相談)
- ・ 国の教育ローンコールセンター
電話 0570-008656(ナビダイヤル)

【例】

金利1.90%(平成28年度10月28日現在)で70万円を借りた場合、約3万3千円助成されます。



朝も昼も放課後も……、どのクラスからでも聞こえてくる歌声に耳を傾けて歩く廊下は、私のお気に入りの場所となった。

二期期の大きな行事、合唱

忘れられない合唱コンクール

富士見台中学校教諭 山川 実夏



コンクール。私自身教員として関わるのが初めてで、学校の雰囲気が大きく変わるのを身近で感じられた。

各クラスの曲が決定すると、昼休みや、授業毎の休み時間も練習に取り組むクラスもある。

場面も見られた。それでも、どのクラスも必死に練習に励む様子は、日々熱を増していた。

私は、合唱コンクールの運営担当となり、夏休み頃から打ち合わせを重ね、当日い

り、生徒・先生方の合唱コンクールに対する「思い」が歌にはつきりと現れるようだった。練習がうまく進まないクラスもあった。「声が全然出ていない」「表情が暗い」など男女やパート毎に対立する

により良く進行できるかを生徒たちと共に何度も話し合い、当日までの日々を過ごした。当日は、会場が生徒と保護者でいっぱい。運営担当として、担当の生徒と舞台袖で合唱前のクラスを迎えるのだが、

各クラスの様々な表情が見えた。緊張して静かに順番を待つクラス、やる気いっぱい賑やかなクラス……どのクラスも、この日のために練習を重ねてきた。キラリ☆ふじみの会場でみんなの歌声が響く度に、舞台袖で目頭が熱くなるのを我慢した。

三年間の集大成の歌声は圧巻だった。三年生の合唱の途中で涙を流す生徒や保護者。指揮者が最後の音を止めた瞬間、拍手喝采。私も涙が溢れた。ここまで人を感動させ、最高の歌声を届ける生徒のパワーを感じられた幸せを忘れずにいたい。

編集日記

広報「ふじみ」10月号には、「富士見村誕生から六十年」という記事が掲載されていた。歩んできた歴史の重みを感じている。

ここ何年か、私が勤務している地域の町会や自治会の周年行事に参加させていただく機会に恵まれている。お話を伺ったり、記念誌を読ませていただいたりする中で、今のまち・地域があるのは、多くの方の功績によることを痛感している。

地域の方によって編集された郷土資料集の冒頭には、次のようなことが書かれている。「〇安心して住めるまち 〇安全に住めるまち 〇人と人が支え合い住めるまち をめざし、今までもこれからもまちの人々が、力を合わせ、工夫し、努力を重ねていきます。みなさんに、私たちのまちの生い立ちや様子を知っていただき、ますますよいまちにしてくれることを願って、五つのことを紹介します。」これからのまちづくりを担う子どもたちに、地域のよさを伝え、さらに発展させていってほしいと思う。

(森田)